

一、次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

サーカスのチケットをくれたのは、郵便局のおばさんだった。親戚からまわってきたんだけれど、どうにも日程が合わなくて、よかつたらお宅で使ってくださいな。

チケットは①枚。母さんは、私ひと混みが苦手だし風邪きみだから、と気弱そうに笑った。それに、今週じゅうに仕上げたい作品がまだ手つかずなのよ、と。私はちよっぴり残念だったけど、はじめてみるほんもののサーカスに胸を躍らせてもいた。それに、なんたつてお出かけ。オシャレができる。私、たしかに、そのころは学校のどの男のこにもケンカで負けたことなかった。でも、それでも、一年に二回ほどしか出してもうええい真黒ビロードのワンピースに袖を通せると思うと、爪先立ちでくるくるまわりたくなっちゃうんだ。

②弟は泣いてイヤだった。公演の当日になっても、ぜったい行かない、行きたくない、と柱につかまりわんわん騒いだ。

これは、おばあちゃんのせい。

小学校に上がる前から、弟は数限りないいたずらをおばあちゃんにしかけた。どれもアイデアたつぷりで、私、いちいちカンシンしたんだけど、おばあちゃんにしてみれば、弟が小鬼にみえていただろう。心臓が丈夫でなけりや、五回は死んじやつてたと思ふ。ある朝寝顔に踊り子みたいな化粧を施されたおばあちゃんは、カガミをみるなり、朝ごはんとちゅうの弟を戸棚にほうりこんだ。五歳の弟はかいてる。

「おばあちゃんはいどい。はくのくびねつこをつかんで戸だなにおしこんで、だしてくれなときにはおもてはとづくにくらくなつてた」

これはちがう。たしか十分ほどでおばあちゃんは戸を開けたんだ。そしてぼろぼろにはげ落ちた化粧のまま、地獄の池からよみがえったような顔つきで、おそろしげにこういったんだ。

「お前、今度あたしにくだらなさいことしかけてごらん。どうなるかわかるね」

「どうなるのかなあ」

弟は涙をあわてて拭った。あきらかに虚勢張って、私には、本気でおばあちゃんの顔におびえているのがわかった。

「今度こんなことしたらね」

もちろん売り飛ばされるなんて本気で考えちゃいなかったろう、けれどノートによれば弟は、あのこなりの考えから、どうやらサーカスを真剣にこわがってたみたい。だからこそ弟はあんなにも必死になって、小さな指を柱にかけ、父さんが引つ張つても私がくすぐつてもその場を動かさなかったんだ。

おばあちゃんが弟に近づいてつた。オシャレしてる。オシャレしたおばあちゃんはうちのひとじゃないみたい。どこか遠い寒い国のお金持ちみたいで、真っ黒い羽がついたコートを着て、そんなおばあちゃんは、ちようど戸棚の前でそうやつたみたいに腰を折つて弟に顔を寄せた。この日のお化粧は完璧だった。

「売りやしないよ」

とおばあちゃんはいった。

「おまえみないないこ、どこに売つたりするもんか」

派くんだまま弟は首を振つた。おばあちゃんは眉を寄せ、申し訳なさそうに弟の髪をなでた。弟のほうでも、申し訳ない、なんてふうにがつくりうなだれちゃつて、それをみているうちおばあちゃんは（A）手を止め、そうそう、そうだった、どうなすいたんだった。

「お前、今度のサーカスにはね、ライオンがいるよ」

「ライオン？」

弟は目を上げた。

「しまつまもいるそうだよ。くまがラッパふいたり、自転車に乗るんだそうだよ」

おばあちゃんはわざとらしく（B）目をつむつてみせた。

「自転車に？ くまが？」

弟はもう私たちに向きなおつてた。無言の問いかけに父さんは目線でごたえた。ああ、ほんとつだよ、おばあちゃんのいうとおりだ。私だつてこたえてやつた。ほんとつこのよ、くまが逆立ちして前脚でペダルをこくの、うしろの脚はものすこしいきおいではちばち拍手しながらね。

弟の唇がきつと結ばれた。五歳のくせに、まるでなにかケツンしたみたいな表情だった。

（C）立ち上がった部屋にはいり、五分後、着替えてできた格好は、遠い寒い国のお坊ちゃんそのもので、おばあちゃんと並んで歩く通行人がいったいにことかとふりかえつてみてくれた。

おばあちゃんは腰をかがめ、顔を弟にぐいと突きつけ、
「お前にお酔飲ませて、カラダをぐにゃんぐにゃんにして、サーカスにたたき売るんだよっ！」

私と母さん、父さんはけらけらと笑つたんだけど、弟は真っ青な表情のまま凍りついていた。朝ごはんには手をつけず、夜にはテールについていたおばあちゃんをじろじろ眺めながら、お皿の料理をいつまでも突ついていた。お酔なんてはいってないよ、私がいうと、知つてるよ、と怒つてみたいにこたえて、ほうれんそうを小さな口にむりやりに押しこんだつて、その夜弟がきかせてくれたおはなしがノートにのつてる。

「くうちゅうぶらんこのげんり」

③
寝床で腹ばいになった弟に、私、今日のはあんまりいい出来じゃないね、といった。弟は残念そうに、わかつてる、とだけこたええると、頭から毛布をひきかぶつちやつた。

おばあちゃんは席から動かさず（D）芸人たちをみつめていた。ときどきハンドバッグから巨大な扇を出して、気取つたふうにおおきながら、はあ、はあ、と息ついてたつて。楽しんでたんだと思う。

そして弟といつたら、あのはしゃぎつぷりはもう、きちがいさだだった。最前列にでいて、係のひとに注意されてもこりずに何度でもいちばん前までいって、身をのりだして、くま、しまつま、おつとせいに小猿、ライオンやチンパンジーなんかには焦げるような視線を送つてた。道化に付け鼻もらつたときなんか、背中をふるふる震わせて、こつちをふりむいた目には涙までためてみたいだった。

⑦
静かに笑つてたつて、つて父さんはとなりでいった。おばあちゃんもめずらしく

そのうち空中ぶらんこのショーがはじまつた。はじめてみるほんものはビルの屋上ぐらいの高さからぶらさがつて、全身銀色のタイツに身をつつた若い男が右左と大きくゆれて、それだけでもじゅうぶんおそろしいのに、急に音楽が鳴り出して、今までみてたのはただの練習だつたんだつてわかつた。右手から、真っ白いイシヨウに真っ赤な薔薇の刺繍を入れたひげのおじさん。左手には、スパンコールだけで作つたみたいな光るレオタードのおねえさん。音楽はワルツに変わり、ふたりは踏み台を蹴つて薄あかりのなかに飛び出した。

ぶらんこは驚くほどゆくりうごいた。楽隊の音はけつこく大きかったのに、ぶらんこのきしみが場内にはつきり響いてたのをおぼえてる。

みしり、みしり、みしり。

おじさんのほうが手を伸ばし、おねえさんは水泳選手のターンのようにそつちへ身を投げた。つながらる手と手。客席から大拍手。きしみの音が、ふたり分の重みのせい、少しばかり高くなつたみたい。

きしつ、きしつ、きしつ。

まわりのひとはみんな口を開けて、雨水を待つてみたい顔つきでぶらんこをみあげてる。

弟はといえば、もちろん、座つてなんかいなかった。背中をびーんとつっぱらせて、ぶらんこに張られたロープに背骨がつながつてみたいに、ゆれに合せてからだをならせ、ならせ、ならせ。

左のぶらんこにもどつたおねえさんは、さかさになったままお化粧をはじめて、右手のお

じさんは、これまたさかさにぶらさがって、女の気まぐれにはまいったよな、つてふうには、まだかい、とおじさんが身ぶりという。

もうちょっと待って、とおねえさんは大げさに片ひじをまわす。場内には爆笑が起き、私もなんだかすくおかしうって、おなかの底をかき回されたみたい

に笑った。それから何度か何度かふたりは宙を舞った。さいごに重々しいドラムロールが響き、おじさんとおねえさんは黒い目隠しをした。場内はしんとして、きしみの音がまた急に大きくなった。きしつ、きしつ、きしつ。

まずおじさんが飛んだ。さかさにぶらさったおねえさんの両手は彼の細い足首をしつかり受けとめた。大波のような拍手。ドラムロールがさらに高まり、二度、三度とぶらんこはふれていき、とうとう、おじさんの足をつかんだまおねえさんは、身をならせて飛んだ。おじさんの手がみえないぶらんこに伸ばされる、あー、みないつせいに息をのんだ、あれじゃ届かない、ふたりとも落ちる！

でも大丈夫。届いた。余裕さえあった。私の目にはぶらんこのほうからおじさんの手のなかに伸びていったようにみえた。ほんのちよつとだけ。二、三センチ。弟のおはなしそっくりそのままに。

私たちの上をぶらんこはなにもなかったようにゆれ、目隠しを取って踏み台に立つふたりの芸人に、えんえん拍手は降り止まなかった。父さんはもちろん、おばあちゃんまで腰を浮かせて手をたたきつけ、最前列の階段のところでは、まるで世を抜かれたみたいに、ぐつたりと座りこんでいた。

次の日、弟は六歳になったんだ。

(いしいしんじ「ぶらんこ乗り」より)

問一 ①にあてはまる漢数字を答えなさい。

問二 線部②「弟は泣いてイヤがった」とありますが、それはなぜですか。四十文字以内でわかりやすく説明しなさい。

問五 線部⑤、「ちよつと戸棚の前でそうやっただけ」とありますが、「そうやった」にあたる箇所を、解答らんこにあてはまるように本文中より二十四字で抜き出しなさい(読点を含む)。

問六 線部⑥、「無言の問いかけ」とありますが、それは誰のどのような問いかけですか、説明しなさい。

問七 ⑦にふさわしい言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア、うれしんだなあ、よかった
イ、かなしいのかな、そつとしておこう
ウ、こわいだろう、そんなことないのになあ
エ、がまんしていたんだね、えらいえらい

問八 線部⑧「まるで世を抜かれたみたいにくつたりと座りこんでいた」とありますが、その時の弟の気持ちとしてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、こんなにもすばらしいサーカスの世界を、大好きなお母さんと一緒にみたかったという気持ち
イ、売りっぱされるかもしれないサーカスの出し物がようやく終わったことで、安心して、ようやく一息つけるという気持ち
ウ、空中ぶらんこの迫力ある演技に、まさに自分がノートに思い描いた光景そのまま、エ、あんなにサーカスを毛嫌いしていたおばあちゃんまでもが、空中ぶらんこに夢中になつてくれたという気持ち
オ、誕生日前日の五歳最後の日に行くことを楽しみにしていたサーカスが、ついに終わってしまったのかという気持ち

問三 ③には、弟がノートに書いたおはなし、「くうちゅうぶらんこのげんり」が入ります。左に挙げた文章を正しい順に並べたものを次から選び、記号で答えなさい。

1. さいしょはたいしてへんかではせん。けれどそのうち、ふとしたひょうしにてあしがさかさにまがって。たごみたいた。それでもまいにち、おす、おす、おす。からだはまるだけでなく、びよんびよんとびちみして、さいごには、かたちまで、なにがなんだかわからなくなつてしまふ。サーカスいちのちからもちがこともまるめてのぼし、まるめてのぼし、しあげにスプレーをかけてかためて、これでくうちゅうぶらんこのいつちようあがり。
2. さて、くうちゅうぶらんこは、いきてるんでしようか。それとしんじやつてるんでしようか。
3. くうちゅうぶらんこは、ほかのぶらんことはちがつて。木やてつでできてはせん。ではありせん。あれは、ひとです。ひとのなれのはてなです。サーカスのひとはこどもをさらつてきて、バケツになんばいもおすをのませます。
4. きよくげいちゅうのぶらんこのりが、あ、あと2センチゆびがたりない、そうおもつたとき、くうちゅうぶらんこをけります。するとぶらんこは、ぐいっとやわらかいおなかをのぼし、それでぶらんこのりは、むこうでゆれているびじのゆびさきをみごとにつかむことができる。はくしゅかつさい。

ア、 3→2→4→1
イ、 4→3→1→2
ウ、 3→1→4→2
エ、 4→1→2→3

問四 線部④「腹ばい」と同じような意味の言葉を選び、記号で答えなさい。

- ア、あおむけ
イ、うつぶせ
ウ、だいのじ
エ、よこむき

問九 本文中の空らん(A)～(D)の組み合わせとして正しいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、A はつと B うつとりと C すつくと D じつと
イ、A うつとりと B すつくと C じつと D はつと
ウ、A すつくと B じつと C はつと D うつとりと
エ、A じつと B はつと C うつとりと D すつくと

問十 線部「の」の用法と同じ用法で使われているものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、夢のような出来事だった。
イ、まだ雪が降っているのか。
ウ、田舎の祖母に手紙を送ろう。
エ、新しいのに換えてほしい。

問十一 線部a～dのカタカナを漢字に直しなさい。

- a、カンシン b、カガミ c、ケツダン d、イシヨウ

※ 問題作成の都合上、一部本文を抜粋、省略しました。

二、次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

著作権上の都合により文章の掲載はできません

著作権上の都合により文章の掲載はできません

著作権上の都合により文章の掲載はできません

問一——線部①「この意味で」が指している内容を本文中より最初と最後の五文字を抜き出して答えなさい（句読点や記号は含まない）。

問二——線部②「私たちはサルの仲間でありながら、サルとは異なつたヒトです」とありますが、どういう点が異なっているのですが、五十字以内で答えなさい（句読点を含む）。

問三 — 線部③「これが『社会』です」とありますが、「社会」ができるための二つの要素を、それぞれ漢字二文字で答えなさい。

問四 — 線部④で、A「自然が自らの進化の中で発展させてきた自然」、B「人間がつくりだす『自然』」は、これより後では何と言ひ換えられていますか、本文中よりAは三文字、Bは二十三文字（記号を含む）で抜き出して答えなさい。

問五 — 線部⑤で、筆者はなぜ「現在を生きていく上での大きな力となる自然である」と思っているのですか、次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自然は、大きな感動と心の安らぎを感じることができ、前向きに生きていくこととする勇氣をあたえてくれるから。

イ 人間も自然の中で生まれ、自然の一部として生きているのであり、自然の中にこそ生きる難問が存在しているから。

ウ 自然の中では多種多様な哺乳動物たちが、自然の中で生きる厳しさや豊かな愛情やすばらしい知恵をつかった行動を示してくれるから。

エ 自然の中で野生動物が展開する弱肉強食の世界は、さまざまな問題を抱える現代社会に生きるためのヒントを示してくれるから。

問六 — 線部⑥「そして自然は、人間をつくりだすことによつて初めて、自らの歴史を明らかにすることができるようになったのです」とありますが、自然の歴史とはどのようなものですか、説明しなさい。

問七 ※ にあてはまる言葉を、本文中より六文字で抜き出して答えなさい。

問八 次のア～エについて、本文で述べられていることとして正しければ○、誤っていれば×で答えなさい。

ア ヒトは他の動物とは異なった特徴を持った動物として進化し、社会を形成するため、ヒトも自然の一部ではあるが、他の動物よりも高い地位にしていることになる。

イ ヒトをつくりだした自然や人間がつくりだした自然が、人間の手によつて猛烈な勢いで消滅させられている現状から、自然を守ろうと強く言われるようになった。

ウ 私たち人間も自然の中で生まれ、自然の一部として生きているため、野生の世界に立つた時は大きな感動や心の安らぎを感じるのである。

エ 自然の歴史を解き明かす能力を持った人間は、自然を発展させなければならないが、地球規模で自然破壊を行っており、その資格を失おうとしている。

問九 空らん（1）（4）に当てはまる言葉として、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア だから イ ところで ウ かつては エ では

問十 — 線部 a～d の漢字をひらがなに直しなさい。

a 宝庫 b 生息 c 作業 d 背景

問十一 — 線部の「で」と同じものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 私たちも自然の一部でしかれない。

イ 本心にそれでよいのでしようか。

ウ 野生動物を残すという目的で作られた。

エ 多くはこんな自然でした。

※ 問題作成の都合上、一部本文を省略しました。